

1 田能村 竹田 《小迫門泛舟図》



展覧会の竹田さんの作品のなかで、おすすめの絵はありますか？



よかろう。では下関にちなんで《小迫門泛舟図》を紹介しよう。これは下関の小瀬戸（こせと）を舟で旅をしたときの絵でござる。



小迫門は、伊崎（下関駅近く）と彦島（下関市の南端にある島）の間の海峡ですね。なぜここを絵にしようとしたんですか？



江戸時代には旅ブームがおきて、新しい観光スポットにおもむいて、風景を絵にするのが流行ったのでござるよ。



富士山とか、宮城の松島のような定番の観光地以外にも、目を向けられるようになったんですね。



そうでござる。この絵にはもう一つポイントがあるのじゃ。実は、小迫門は中国の三国志の舞台になった、赤壁にたとえられた絶景スポットだったのでござる。



なるほど〜。そう言われると風情を感じますね。



そうじゃろ。舟から景色を眺めているような気もちで、この絵を見てもらいたいの。



田能村竹田《小迫門泛舟図》文政8年（1825） 下関市立美術館